* 最終目標

1. 修正箇所・仕様を理解していただく
2. EGARCHモデルで㊥と異なる部分と同じ部分を理解していただいたうえで，方針を決定する
3. 今後の修正予定を決める

* 話し方（できればパワーポイントの資料を作成）

1. 修正箇所について
   1. ２特用ツールと㊥の相違点一覧をもとにどの点が異なるか再確認
   2. 為替と株についてロジック上でどのように変更したか確認（ppt１ページ程度で一覧を作成）
   3. 変更点詳細
      * 全体
        1. 新モデルと旧モデルが設定できるよう修正
      * 為替
        1. 使用している金利をLSCから計算したものから㊥と同様，Bloombergの金利に変更
        2. 新たに実装した為替の式を見せながら，パラメータ推計ツールの中で追加したシートの説明
      * 株式
        1. パラメータ推計ツールについてＥＧＡＲＣＨモデルを実装した点を説明
        2. 将来シナリオツールについて，jump過程とその調整に関するものを導入した
2. EGARCH過程のパラメータ推計について
   1. ㊥と現状の２特用ツールでＥＧＡＲＣＨ過程のロジックについてどこまで同じでどこが異なるのかを説明
   2. （ア）のような実装になった経緯を説明
      * 初めは㊥と同様に上限・下限なしで実装していた
      * ソルバーを実行する際にエラーが出て収束しなくなった
      * 原因としては，パラメータの探索をする際に分散hが小さくなりすぎるor大きくなりすぎるため，目的関数が大きくなりエラーが起こる
      * 目的関数が小さくなるようにパラメータを設定するため，このような状況は省いても問題ないと考えられる．
      * よって上限，下限を付けて推計した
   3. ㊥の結果とどの程度乖離が生じているのかを説明
   4. 今後EGARCHのパラメータ推計をどうするのか
      * 現状のように上限・下限を付けたまま推計する仕様にするのか
      * ㊥と同様に，Rによる推計にするのか
      * 両者を用いるのか
      * 上限，下限によらないようなパラメータ推計を調査するのか（この場合，時間がかかると思われる）
3. 今後の予定について
   1. 国内債券のデータが入手できたかヒアリング